

# 中学校 第1学年 音楽科 学習指導案

宮城教育大学附属中学校  
教諭 菅井 由香

題材名	わが国やアジア地域の、多様で豊かな声による表現を鑑賞しよう（3時間）
題材のねらい	日本とアジアの声による表現の多様性を理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考えながら鑑賞する。
本時のねらい	「ケチャ」の仕組みについて理解する。（第2時）
指導時期	1月上旬～1月下旬


## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

わが国や郷土の伝統音楽は、古くから中国や朝鮮半島などの音楽文化の影響を受けながら発展してきた音楽も多い。また実際に「ケチャ」を体験することで、「ケチャ」の仕組みを実感することができ、音楽の多様性について深く理解することにつながると考える。紙の教科書では、聴くことに焦点があたり、「ケチャ」を体験させるにも教師側の負担が大きい。「指導者用デジタル教材」を用いることによって、「ケチャ」の模範動画や表現の工夫を視覚的にも捉えることができ、鑑賞の学習を深化させるための活動となるであろう。

## 本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> <li>「目次を開く」から「ケチャを体験しよう」のページを表示する。</li> </ul> <p>動画を視聴し、本時の活動を確認する。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>「ケチャを体験しよう」の「動画」アイコンをクリックして、「ケチャを体験しよう（シンプル）」を視聴する。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p>四つのパートに分かれて、「ケチャ」を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●㉗の部分全体で練習する。Aを教師、BCDを生徒が担当して、「チャ」の発音の確認をする。</li> <li>●小グループをつくり、四つのパートに分かれて㉗を中心に練習する。慣れるまでは、遅めの速度で、●の部分に「ク」を発音するなど、リズムを意識して練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●動画を「ゆっくり」再生にして繰り返し視聴するなど、ケチャのイメージをつかむ。</li> </ul> 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●動画を参考にしながら、身体表現や強弱の変化、終わり方などにも着目し、表現を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習者用デジタル教材を活用すると、細かい動きを自分たちで確認することができる。</li> </ul> 
	<p>クラス全体を四つのグループに分け、全体で合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●強弱や身体表現なども意識しながら、全体で合わせる。</li> <li>●リズムに慣れてきたら、「チャ」がつく3文字の言葉を入れて、全体で歌ってみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ペン」を表示し、●の部分に文字を入れる。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>●改めて「ケチャ」を視聴し、「ケチャ」の仕組みが理解できたか、感じ取ったことをワークシートに記入する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●p.59「日本とアジアの声によるさまざまな表現」の「ケチャ」の[音声]アイコンをクリックして視聴する。</li></ul> 

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

「ケチャ」を指導する際、教師側でワークシートの準備や指導法について研究するなど、多くの時間が必要となる。しかし、「指導者用デジタル教材」を活用することによって、授業準備の時間が解消され、教師側の指導の幅を広げることができる。また、表現を組み込んだ鑑賞の授業が可能となり、生徒にとっては、音楽の特徴をより実感することができ、音楽の多様性への理解も深まると考える。アジアの声の表現について深く学習することで、世界のさまざまな音楽文化についての興味を引き出すきっかけとなる。